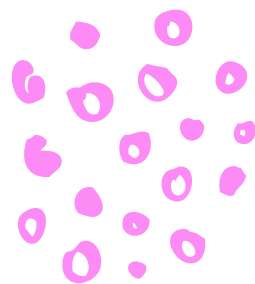


ゆりいか通信

第7号

令和6年11月



「何もしなくても大丈夫」？

教職員は出会った子どもの成長を見守り育てたいと思っています。そしてその子どもたちが将来必要となるさまざまな知識やスキルを付けてあげたいと思っ日々さまざま活動を行っていただきます。そして、それらを最も有効に行えるホームグラウンドが『学校』

というところなのです。『学校』は、私自身教員をしていた時には、「子どもたちが将来心豊かに生きていけるように」と願って授業や学級活動、課外活動など微力ながら全力で行ってききました。だからこそ、学校に来ていない子どもたちには、それらの「教育」が担保されないのではないかと不安になるのだと思います。

一方、保護者として不登校の我が子に寄り添ってみると「学校」の他にもこれほど多く活用できる施設があり、サポートしてくださる方々がいらっしゃるのだと実感しました。そして、不登校を経験した保護者の方たちと保護者目線でお話を伺うようになると、本当に多岐にわたる進路があり、生き方があろうと思うようになります。そう思ったお

話を学校現場にすると、まるで「じゃあ、何もしなくても大丈夫なのね」という誤解を生む恐れもあります。

「何もしなくても大丈夫」というのは、「保護者が自分たちで丸抱えをしなくても大丈夫」という意味であって、社会や周りが「何もしなくても大丈夫」ということではありません。

不登校を経験したお子さんたちの親御さんとお話をすると、そこには親御さんやお子さんを取り巻く大人たちの価値観や考え方の変化や、またそれをサポートしてくださる人や環境があつてのことだと分かりません。そのことを理解しなければ、言葉の一人歩きは大変危険なものになると危惧しています。

不登校の子どもたちを取り巻く人々がそれぞれの立場から適切に関わることで、その子どもたちの健やかな成長を促すことができると思います。その子どもをとりまく大人たちがチームとなつて育てることが、大切なのではないのでしょうか。

Our Activities



トふらっとト オンライン企画

トふらっとトではオンラインゲーム部を作る方向で話を進めています。どのように行うのがより多くの若者に参加しやすい形になるのか、どの時間帯に行うのが良いかなど考えることは山ほどありますけれど、企画そのものも楽しんでほしいので、誰にとっても無理のない形で進めようと思っ

10月のフラツペ

【消費者トラブル】

10月20日1時半から、「保護者・支援者が知っておきたい 若者に多い消費者トラブル」について勉強会を行いました。京都府消費生活安全センターから消費者教育コーディネーターの木戸明美様にお越しいただき、最近の状況についてお話ししていただきました。いろいろ盛りだくさんのお話がありました。特にスマホでの買い物では注意事項が小さな字で書かれているので大画面で読んでほしいとの言葉が印象的でした。また、間違っ

出張授業の報告

10月10日木曜日、京都市ユースサービス協会さんのお声がけでこりす西陣を運営する上岡と共に立命館大学産業社会学部の「キャリア形成特殊講義」の授業でゲストティーチャーとしてお話をさせていただきました。

若者支援における若者理解の一端としてゆりか研究会における不登校理解についてご説明させていただきました。

ゆりか研究会では、学校現場での不登校理解を進めるために活動を行っています。個別にオンラインでお話しもさせていただきますますが、同じ学校で関心のある先生方が何人かいらっしやれば学校の方に向いてお話しもさせていただきます。お気軽にお声がけください。



Thanks to

THE PEOPLE WHO WARMLY SUPPORT US

支援者の皆様（支援者一覧・順不同）

多喜誠子さま、杉本さま、宮坂 修平さま他 クラウドファンディングおよび
その他の形での寄付をしていただき、ありがとうございました。

なお、campfire community において、クラウドファンディングを行って
おります。また直接の寄付も受け付けております。どうぞお声がけください。



今月のコラム

今月は、ゆりいか研究会のスタッフによるコラムです。

「好き」を大切に生きる生き方

”
あなたは今好きなことをして生きていますか？

まだ四半世紀しか生きていない私が「生き方」という仰々しいタイトルを掲げるには早すぎるかも知れませんが、現時点で私が大切だと思うことを書いていこうと思います。

私は幼い頃から、物事にハマるのも早ければ、冷めるのも早い、いわゆる「熱しやすく冷めやすい」というタイプでした。ただ、ハマっている瞬間は何かの力に引張られるようにのみり込んできました。

中学のバレー部、高校の百人一首部。大学では部活サークルを掛け持ちできると知り3つの部活サークル、ガールスカウト、学生団体と、実習課題が多い学科の学生とは思えない選択をしました。

学生時代に取り組んだアルバイトは単発も含め20種類はあったと思います。時にはダブルブッキングをし迷惑をかけたり、身体を壊しかけたりと好きな事のために無理をしてきた時期でした。ただなぜそこまで躍りになって色んなことに挑戦したのか。それは単に楽しい以外に、自分が本当に楽しめること、輝ける人と場所を見つかるためでもありました。可能性は自分の中に無限大にあると信じています。当時はその経験が将来何になるのか不明瞭でしたが、今確かに自分の前にも後ろにも道が拓けていると思えます。

大学の卒業旅行の夜、友達が生死について迷っていたためか「さゆはなんで生きてるの？」と聞かれました。大学4年間でいろんなご縁を全身で感じてきた私は「年々、経験や人が繋がっていくのが楽しいから」と答えた記憶があります。人生は壮大なフラグ回収。点と点だった知識や経験、人脈が、線で繋がる瞬間が私に

はたまらなく楽しいのです。また昔の自分にはできなかったことを、経験を積んだ自分が叶えてあげるのも最高です。

「好きなことを仕事にした方がいいかな」という誰もが一度は悩む質問に、こう答えた知り合いがいました。

「私はやりたくないことをやらないという選択肢でもいいと思う」

好きなことを仕事にできる人はひと握りです。だからといって今やっている仕事が好きかは別だと思えます。私はさまざまなアルバイトや職種を経て、自分が輝けるのは「自分の存在価値を感じる瞬間」「人に寄り添う瞬間」だと気がつくことができました。転職活動の際も、自分の色を出す仕事、自分の価値を認めてもらえる仕事、を基準に次の職場を探しました。「人にスポーツライトを当てた方が反射で自分が輝ける」「薔薇を手向ける手には薔薇の香り」という言葉が好きです。人に手を貸す余裕が持てて初めて一人前になれるし、その反面自分もより一層幸せになれると思います。

数年ぶりに電話した友達や友人スピーチをしてくれた友達から「ずっと幸せでいて欲しい」と言ってもらえたことがあります。自分が幸せであることを幸せと感じてくれる存在。そんな存在がいること自体が幸せだと思いました。私は周りの人のためにも不幸になるような選択はしまいと心に誓っています。

そんな「好き」に従ってきた私の人生も、私一人では叶わないことばかりでした。その時々に応援してくれる家族や友人、先生の支えがあったからです。これからも「好き」を肯定してくれるみんなに感謝しながら、生きていきたいと思えます。

前島 小百合



金鶏鳥

宮美遊

幼少期 (五)

しばらく沈黙が続いた。せっかくみんなを誘ったのに、このままでは面白くない。何か話題はないかと竜太は考えながら歩いていった。そして昨日の事を思い出し、振り返ってみんなに聞こえるように言った。

「きのうの晩、お父(とう)と徳兄(とくにい)と、この道を歩いとったんや」

「なんで？」

と後ろにいた信男が聞く。
「叔父(おじ)やんの家へ行った帰りや」

竜太は続けて言った。

「そしたら田んぼの端でチカチカ光つとるで、ホタルやと思っって手を伸ばしたんや」

「ホタルとれたん？」

と信男が、嬉しそうに聞く。

「いや」

と竜太は首を振る。

「なんで？」

また信男が聞くと竜太は言った。

「『コラー！』といきなりお父

(とう)に叱られた」

「どうしたん？」

と信男が聞き、

「何で叱るん？」

と辰郎も聞いた。

「『飛んどる光はホタルやで捕って

もエエけど、草むらで光つとるの

は、ヘビの目かも知れんから取った

らあかん！』って」

と父親の口真似をして竜太が言う。

それを聞いたみんなは、一瞬ビクッ

とした。辰郎が

「のぶちゃん、もっとコツチおいな

い」

と草むらを歩いている信男の手を引

つ張って、自分にくつつくように歩

かせた。

「ほんまや、真ん中歩いた方がええ

ぞ」

「そうやそうや」

最後尾を歩いていた豊と敬も真ん

中の子たちに声をかけ、みんな草む

らから離れて歩き始めた。

絵：落葉画廊

編集後記

現職の先生方と連絡を取っていると2学期は特に息のつく暇もない様子が伝わってきます。昨年まではその中に私もいたのだなと思います。その異常さに気付いていませんでした。先生がたもお子さん方も自分の心と体を振り返って上手に休息をとっていただければと願っています。(恩庄か)

おしらせ

★フラッペ

次回フラッペは11月17日

午後に行います。今回は防災について学びを深めようと思っております。お気軽にご参加ください。

★11月16日午後、教職員向けにA1スキルの勉強会を行います。詳細については研究会のサイトをご覧ください。

この小説は、明治・大正・昭和と激動の時代を乗り切った実在の人物をモデルとした小説です。先行き不透明な現代を生きるヒントが得られるような気がします。ぜひこれからも楽しんでご一読ください